

【学部共通科目】

講義コード 科目コード	連番	科目名		回生	週時間	単位	開講期	曜時間	担当者	備考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか1つの科目名を選択して履修登録すること)		項
		専修・科目	講義形態										
0012	001	哲学基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	2	前期	木2	君嶋・赤嶺・山田・太田	コーディネーター:福谷			3
0012	002	哲学基礎文化学系	ゼミナールII	1-4	2	2	後期	木2	梅野・末永・岩井・上原	コーディネーター:氣多			4
0022	003	東洋文化学系	ゼミナールI	2-4	2	2	前期	木5	池端・岸野・木村・村田・安田・Bull	コーディネーター:横地			5
0022	004	東洋文化学系	ゼミナールII	1-4	2	2	後期	木5	小籠原・阿尾・山中・白方・佐藤・八木・鈴木・成田	コーディネーター:横地			6
0032	005	西洋文化学系	ゼミナールI	1-4	30	2	前期	集中	西井・堀川・兒玉・木島・平光・渡江・田中	コーディネーター:若島			7
0032	006	西洋文化学系	ゼミナールII	1-4	2	2	後期	水5	山下・國司・山下・大内・西谷・宇和川・寺澤	コーディネーター:若島			9
0042	007	歴史基礎文化学系	ゼミナールI	1-4	2	2	前期	木1	田中・毛利・増田・和田・横内・山内・藤井・松本・南雲・西村・福嶋・佐野	コーディネーター:杉山			11
0042	008	歴史基礎文化学系	ゼミナールII	1-4	2	2	後期	木1	竹内・中野・高原・伊藤・亀田・坪井・大河内・中川・加藤・上原・妹尾・橋本・村上・内記	コーディネーター:杉山			13
0052	009	行動・環境文化学系	ゼミナールI	1-4	2	2	前期	木5	大瀧・武内・有藤・江南・福浦・戸祝・中島・木下・杉・石井・益・渡邊・柴田・兼子・浅尾	コーディネーター:櫻井			15
0052	010	行動・環境文化学系	ゼミナールII	1-4	2	2	後期	木5	朝霞・平松・林・藤原・北島・西川・安井・山本・水野・山内	コーディネーター:櫻井			17
0062	011	基礎現代文化学系	ゼミナールI	1-4	2	2	前期	木5	佐藤・中尾・大西・吉川・田林	コーディネーター:伊藤			18
0062	012	基礎現代文化学系	ゼミナールII	1-4	2	2	後期	木5	富永・岡内・藤川・川崎・坂	コーディネーター:永井			19
8005	101	博物館学I	講義	2-4	2	2	前期	月5	佐々木 進	学芸員用			20
8006	102	博物館学II	講義	2-4	2	2	後期	月5	佐々木 進	学芸員用			21
8007	103	博物館学III	講義	2-4	2	2	後期	水2	宮川 禎一	学芸員用			22
8031	104	フランス語(中級)	語学	2-4	2	1	前期	月4	エリック・アヴォカ		全学共通	フランス語II	23
8031	105	フランス語(中級)	語学	2-4	2	1	後期	月4	エリック・アヴォカ		全学共通	フランス語II	24
8032	106	フランス語(上級)	語学	3-4	2	1	前期	月5	エリック・アヴォカ		全学共通	フランス語III	25
8032	107	フランス語(上級)	語学	3-4	2	1	後期	月5	エリック・アヴォカ		全学共通	フランス語III	26
8036	108	シュメール語(初級)	語学	3-4	2	2	通年	金1	森 若葉		言語学 108	西南アジア 018	27
8039	109	スワヒリ語(初級)	語学	2-4	2	1	前期	火3	井戸根 綾子		言語学 109	②/アジア・アフリカ地域研究研究科	28
8039	110	スワヒリ語(中級)	語学	2-4	2	1	後期	火3	井戸根 綾子		言語学 110	アジア・アフリカ地域研究研究科	29
8050	111	ギリシア語(2時間コース)	語学	2-4	2	2	通年	金3	早瀬 篤		西洋古典学 111		30
8051	112	ギリシア語(4時間コース)	語学	2-4	4	4	通年	月1木1	広川 直幸		西洋古典学 112		31
8052	113	ラテン語(2時間コース)	語学	2-4	2	2	通年	木3	堀川 宏		西洋古典学 113		32
8053	114	ラテン語(4時間コース)	語学	2-4	4	4	通年	月3金2	佐藤 義尚		西洋古典学 114		33
8054	115	スペイン語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	火4	長谷川 信弥		イタリア語学/イタリア文学 115		34
8055	116	スペイン語(中級)	語学	2-4	2	2	通年	火5	長谷川 信弥		イタリア語学/イタリア文学 116		35
8057	117	イタリア語(初級4時間コース)	語学	2-4	4	4	通年	火3金2	菅野 類		イタリア語学/イタリア文学 117		36
8059	118	イタリア語会話(中級)	語学	2-4	2	2	通年	火5	ダニエラ・シャロム・ヴァーガータ		イタリア語学/イタリア文学 118		38
8060	119	朝鮮語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	水2	朴 真完				39
8061	120	朝鮮語(中級)	語学	2-4	2	2	通年	水4	金 文京				40
8062	121	サンスクリット(2時間コース)	語学	1-4	2	2	通年	木4	置田 清和		仏教学 121 西南アジア史学 121	インド古典学 121	41
8046	122	サンスクリット(4時間前期コース)	語学	1-4	4	2	前期	月5木5	VASUDEVA, Somdev		仏教学 122	インド古典学 122	42
8046	123	サンスクリット(4時間後期コース)	語学	1-4	4	2	後期	月5木5	VASUDEVA, Somdev		仏教学 123	インド古典学 123	43
8102	124	ヘブライ語(初級)	語学	3-4	2	1	前期	火3	手島 勲矢		西南アジア史学 124	キリスト教 124	44
8103	125	ヘブライ語(中級)	語学	3-4	2	1	後期	火3	手島 勲矢		西南アジア史学 125	キリスト教 125	45
8070	126	イラン語(初級)	語学	3-4	2	2	通年	水4	森 茂男		西南アジア史学 126		46
8078	127	チベット語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	月1	高橋 慶治		仏教学 127		47
8079	128	チベット語(中級)	語学	3-4	2	2	通年	金3	宮崎 泉		仏教学 128		48
8080	129	アラブ語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	木2	西尾 哲夫		西南アジア史学 129		49
8082	130	ポーランド語(初級I)	語学	1-4	2	2	通年	金4	佐藤 昭裕		スラブ語学/スラブ文学 130		50
8033	132	ポーランド語(初級II)	語学	1-4	2	2	通年	火3	Bogna Sasaki		スラブ語学/スラブ文学 132		51
8086	133	ポーランド語(中級II)	語学	1-4	2	2	通年	水4	Bogna Sasaki		スラブ語学/スラブ文学 133		52
8089	134	モンゴル語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	金2	塩谷 茂樹		言語学 134		53
8104	135	ヒンディー語(初級)	語学	1-4	2	2	通年	金5	小松 久恵		インド古典学 135 西南アジア史学 135	②/アジア・アフリカ地域研究研究科	54
8105	136	ヒンディー語(中級)	語学	2-4	2	2	通年	火3	西岡 美樹		インド古典学 136	②/アジア・アフリカ地域研究研究科	55
8094	137	オランダ語(初級)	語学	2-4	2	2	通年	木2	河崎 靖		言語学 137		56
8106	138	英語	語学	2-4	2	1	前期	木2	服部 美樹	教職用			57
8106	139	英語	語学	2-4	2	1	後期	木2	未定	教職用			58

講義コード		科目名		回生	週時間	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	他専修・他学部(研究科)共通 (他専修・他学部と共通の科目は、いずれか、1つの科目名を選択して履修登録すること)		項
科目コード	連番	専修・科目	講義形態										
8106	140	英語	語学	2-4	2	1	前期	水1	N. リー	教職用			59
8106	141	英語	語学	2-4	2	1	後期	水1	N. リー	教職用			61
8041	142	英語論文作成法	演習	2-4	2	2	前期	火4	大崎 紀子				63
8041	143	英語論文作成法	演習	2-4	2	2	後期	火4	大崎 紀子				64
8107	144	書道	演習	2-4	2	2	前期	金4	日比野 実	教職用			65
8107	145	書道	演習	2-4	2	2	後期	金4	日比野 実	教職用			66
8190	146	アジア研究(オムニバス)	特殊講義	1-4	2	2	前期	木2	落合・出口・平田	世界展開力	社会学 146		67
8190	147	アジア研究(オムニバス)	特殊講義	1-4	2	2	後期	木2	落合・出口・平田	世界展開力	社会学 147		68
8191	148	アジア研究(若者)	特殊講義	2-4	4	2	前期	木3木4	Tuukka Toivonen	世界展開力	社会学 148		69
8192	149	アジア研究(ベトナム)	特殊講義	2-4	4	1	後期	木3木4	Dang Nguyen Anh-Vu Manh Loi	世界展開力	社会学 149		71
8193	150	アジア研究(韓国と日本)	特殊講義	2-4	4	1	前期	木3木4	韓 栄恵	世界展開力	社会学 150		73
8194	151	アジア研究(日本史)	特殊講義	2-4	4	1	後期	木3木4	Steven Trenson	世界展開力	社会学 151		74
8195	152	アジア研究(ベトナム研修)	特殊講義	2-4	30	2	前期	不定	落合 恵美子	世界展開力	社会学 152		76
8196	153	アジア研究(東アジアワークショップ)	特殊講義	3-4	2	2	前期	月5	落合・安里	世界展開力	社会学 153		77
8198	155	アジア研究(移民)	特殊講義	2-4	2	2	前期	火2	安里 和晃	世界展開力	社会学 155		78
8199	156	アジア研究(韓国研修)	演習	2-4	60	4	前期	不定	田窪 行則	世界展開力	言語学 156	社会学 156	79
8189	157	アジア研究(中国南京研修)	語学	2-4	60	2	前期	不定	平田 昌司	世界展開力	中国語学中国文学 157		80
8188	158	アジア研究(分析アジア哲学入門I)	特殊講義	1-4	30	2	前期	集中	出口・Garfield・Siderits・Yagisawa	世界展開力			81
8187	159	アジア研究(分析アジア哲学入門II)	特殊講義	1-4	15	1	前期	集中	出口・Priest	世界展開力			82

【学部共通科目】

授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 福谷 茂 非常勤講師 君嶋 泰明 非常勤講師 赤嶺 宏介 非常勤講師 山田 貴裕 非常勤講師 太田 裕信					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態
題目	哲学基礎文化学入門									
【授業の概要・目的】										
<p>哲学的な諸問題について研究するとはどのようなことなのか、若手研究者たちの講義を通して知ること、そして受動的に知識を得るだけでなくみずから質問し議論に参加する態度を養成することが、本授業の目的です。</p>										
【授業計画と内容】										
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってもらいます。テーマはさまざまですが、結果的には前期・後期ともに哲学史を時代に沿って学べるように配列してあります。この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
<p>授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。</p>										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>										
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)) 授業中に適宜指示します。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>										

授業科目名 <英訳>	哲学基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 氣多 雅子 非常勤講師 梅野 宏樹 非常勤講師 末永 絵里子 非常勤講師 岩井 謙太郎 非常勤講師 上原 潔					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態
題目	哲学基礎文化学入門									
【授業の概要・目的】										
<p>哲学的な諸問題について研究するとはどのようなことなのか、若手研究者たちの講義を通して知ること、そして受動的に知識を得るだけでなくみずから質問し議論に参加する態度を養成することが、本授業の目的です。</p>										
【授業計画と内容】										
<p>哲学基礎文化学系各専修の大学院で学んだ若手研究者によるリレー講義。それぞれのイキのいい研究テーマについて、学部学生向けに、分りやすく、そして楽しく語ってまいります。テーマはさまざまですが、広い意味で宗教的な問題に収斂する哲学的内容を扱う予定です。</p> <p>この授業の特色として、毎回、質問の時間を用意しています。その日の講義の内容はもちろんのこと、学生生活や研究生生活の相談や、進路相談など、経験豊富な先輩にどしどしぶつけてみましょう。皆さんにとって学問の最前線に触れるとともに、研究室の先輩と早い目から交流する場となることもこの授業の目的のひとつです。</p> <p>なお受講者には担当者が代わるたびに授業アンケートに答えていただきます。これからあちこちの大学で教鞭を取る若手教員を育てるつもりになって、参考にも励みにもなる回答をお寄せください。</p>										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
<p>授業に際しては、毎回出席をとります。全講義の8割以上に出席することが、単位認定の条件です。成績評価は学期末レポートで行います。提出要領その他は授業時に伝達します。</p>										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>										
<p>(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))</p> <p>授業中に適宜指示します。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>										

授業科目名 <英訳>	東洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 横地 優子 非常勤講師 池端 惟人 非常勤講師 岸野 亮示 非常勤講師 木村 亮太 非常勤講師 村田 みお 非常勤講師 安田 章紀 非常勤講師 Bill Mark					
	配当学年	2回生以上	単位数		2	開講期	前期	曜時限	木5	授業形態
題目	東洋の文学と思想 (中国哲学・インド古典学・仏教学)									
【授業の概要・目的】										
若手研究者による、中国・インド・チベットの思想・宗教・文化についての概説。専修の案内も兼ねて、東洋に生まれた多彩な思考を「文献学」の観点からリレー形式で紹介し、幅広い知識への興味を促す。										
【授業計画と内容】										
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(専修案内・研究室訪問を兼ねる) ・中国における「隠逸」の有した意義 その発生と展開 (池田、中国哲学) ・経典註釈学概説(木村、中国哲学) ・写経の思想的基礎知識 何故お経を写すのか?(村田、中国哲学) ・「私」と「真理」との対話 ウパニシャッド解釈の異同(池端、インド古典学) ・インド天文学(Bill Mak、インド古典学) ・インド・チベット・中国における仏教僧団の研究(岸野、仏教学) ・六道輪廻の世界観(安田、仏教学) 										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
平常点(20%)と学期末のレポート(80%、課題選択制)										
【教科書】										
配布資料による。										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
質問等は授業後に受け付ける他、KULASISを通じての講師への連絡も可。緊急の際には、文学部新館六階の中国哲学史研究室(075-753-2755)、同五階のインド古典学・仏教学共同研究室(075-753-2756)に電話のこと。(詳細は初回ガイダンスにて報告)										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	東洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 横地 優子 非常勤講師 小鹿原 敏夫 非常勤講師 阿尾 あすか 非常勤講師 山中 延之 非常勤講師 白方 佳果 非常勤講師 佐藤 礼子 非常勤講師 八木 堅二 非常勤講師 鈴木 史己 非常勤講師 成田 健太郎					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木5	授業形態
題目	東洋の文学と思想 (国語学国文学・中国語学中国文学)									
【授業の概要・目的】										
各担当者がそれぞれの研究内容について、国語学国文学、中国語学中国文学の研究が具体的にどのようなものであるかを受講者に紹介する。東洋の文学を読むための基本的な知識を身につけることを目標とする。										
【授業計画と内容】										
<ul style="list-style-type: none"> ・抄物に見る室町時代の文化とことば(山中) ・きりしたん語学(小鹿原) ・勅撰和歌集の変遷 政治と文学の関係(阿尾) ・近代文学研究 鏡花作品にみる同時代の影響(白方) ・六朝仏教志怪の様相(佐藤) ・声調の歴史的変化について(八木) ・漢語語彙史研究(鈴木) ・「正しい」筆順とは何か? 漢字筆順規範をめぐる考察(成田) 										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
平常点(20%)と学期末のレポート(80%)。										
【教科書】										
配布資料による。										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
質問等は授業後に受け付ける。なお、緊急のことがあれば、文学部七階にある国文学研究室(075-753-2824)、中国文学研究室(075-753-2825)に電話のこと。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	西洋文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 若島 正 非常勤講師 西井 奨 非常勤講師 堀川 宏 非常勤講師 兒玉 麻美 非常勤講師 木島 菜菜子 非常勤講師 平光 文乃 非常勤講師 渋谷 陽子 非常勤講師 田中 大					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態
題目	西洋文学へのいざない									
【授業の概要・目的】										
<p>本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、ドイツ文学、イギリス文学、フランス文学、イタリア文学、チェコ文学の作家や作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のさまざまなテーマや方法を学ぶことを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。</p>										
【授業計画と内容】										
<p>取り上げるテーマと担当者は次の通り。 初回以外は、一つのテーマについて2コマの授業時間をあてる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：はじめに（担当者全員） 2：西洋古代の文芸理論 アリストテレス『詩学』とホラティウス『詩論』（西井奨） 3：エウリーピデースの悲劇『バツカイ』を読む（堀川宏） 4：ファウスト・ヴァリエーション（兒玉麻美） 5：ヴィクトリア朝の文学と絵画 ディケンズとジョージ・エリオットを中心に（木島菜菜子） 6：世紀転換期のフランスの文化と文学 プルーストにおける「部屋」（平光文乃） 7：第一次大戦とイタリアの詩人（渋谷陽子） 8：第二次大戦後のチェコ文学を読む（田中大） <p>集中講義の日程は、9月9日（月）から13日（金）まで。</p>										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
平常点（授業への出席と参加）とレポートによって評価する。										
【教科書】										
プリント配布。										
【参考書等】										
（参考書） 授業中に紹介する										
----- 西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----										

西洋文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：若島正

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	西洋文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名 なし	文学研究科		教授	若島 正			
	配当学年		1回生以上		単位数	2	開講期	後期	曜時限	水5	授業形態
非常勤講師		山下 修一	非常勤講師		國司 航佑	非常勤講師		山下 大吾	非常勤講師		大内 真一郎
非常勤講師		西谷 茉莉子	非常勤講師		宇和川 雄	非常勤講師		寺澤 大奈			
題目		西洋文学の諸相									
[授業の概要・目的]											
<p>本研究科西洋文献文化学専攻出身の若手研究者7名によるリレー講義。西洋文化学系で学ぼうと考えている1・2回生をおもな対象として、西洋文学にかんする入門的な授業をおこなう。西洋古典文学、イタリア文学、ロシア文学、アメリカ文学、イギリス文学、ドイツ文学、スイス文学のさまざまなジャンルの作品を通して、西洋文学の多面的な魅力にふれるとともに、文学研究のテーマや方法への理解を深めることを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じて演習形式を取り入れることもある。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>取り上げるテーマと担当者は次の通り。 初回以外は、一つのテーマについて2週の授業時間をあてる。</p> <p>1：はじめに（担当者全員） 2：歴史と文学　ヘーロドトスの『歴史』を読む（山下修一） 3：ベネデット・クローチェの『ダンテの詩』を読む（國司航佑） 4：詩人の散文　プーシキンの『大尉の娘』を読む（山下大吾） 5：アメリカ短編小説を読む（大内真一郎） 6：20世紀の英詩を読む　英詩の基礎知識とその応用（西谷茉莉子） 7：ベンヤミンと無声映画の時代（宇和川雄） 8：スイス人マックス・フリッシュ　国賊と呼ばれた国民的作家（寺澤大奈）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・基準]											
平常点（授業への出席と参加）とレポートによって評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----											

西洋文化学系(ゼミナールII)(2)

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

あまり関心のないテーマにかんする授業でも、きっと新しい発見があるはずなので、ぜひ出席してみてください。

コーディネーター：若島正

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 杉山 正明
			非常勤講師 田中 一輝
			非常勤講師 毛利 英介
			非常勤講師 増田 知之
			非常勤講師 和田 郁子
			非常勤講師 横内 吾郎
			非常勤講師 山内 暁子
			非常勤講師 藤井 翔太
			非常勤講師 松本 涼
			非常勤講師 南雲 泰輔
			非常勤講師 西村 昌洋
			非常勤講師 福嶋 千穂
			非常勤講師 佐野 光宜

配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木1	授業形態	ゼミナール
------	-------	-----	---	-----	----	-----	----	------	-------

題目	歴史学研究の最前線(1) 東洋史学・西南アジア史学・西洋史学のフロンティア
----	---------------------------------------

【授業の概要・目的】
 歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、自らの研究の体験をふまえながら、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。前期の授業では、東洋史学と西南アジア史学、西洋史学を中心に、新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。

【授業計画と内容】
 12名のゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。次のような内容を予定している。
 (1)魏晋洛陽城の宮城配置
 (2)契丹・北宋間の国境紛争と外交交渉
 (3)明清時代における「書」文化の歴史的展開
 (4)近世南インドの港町における政治・社会・経済的変容
 (5)初期イスラーム時代史研究の現在
 (6)古代ギリシアにおける死と儀礼
 (7)20世紀イギリスにおけるプロ・フットボールとメディアの関係
 (8)歴史と物語：「ヴィーンランド・サガ」とヴァイキングの新大陸到達
 (9)後期ローマ帝国時代のローマ市
 (10)末期帝国における「ローマ人」と「野蛮人」
 (11)近世ルテニア地域と宗派的ネットワーク
 (12)公共浴場と古代ローマ社会
 *コーディネーター：杉山 正明

【履修要件】
 特になし

 歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く

歴史基礎文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[成績評価の方法・基準]

講義の感想を中心とする毎回の小レポートと、学期末のレポートにもとづいて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	歴史基礎文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)	担当者氏名	文学研究科 教授 吉本 道雅 非常勤講師 竹内 亮 非常勤講師 中町 美香子 非常勤講師 淵原 智幸 非常勤講師 伊藤 啓介 非常勤講師 亀田 俊和 非常勤講師 坪井 剛 非常勤講師 大河内 勇介 非常勤講師 中川 未来 非常勤講師 加藤 麻子 非常勤講師 上峯 篤史 非常勤講師 妹尾 裕介 非常勤講師 橋本 美佳 非常勤講師 村上 由美子 非常勤講師 内記 理
---------------	---	-------	--

配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木1	授業形態	ゼミナール
------	-------	-----	---	-----	----	-----	----	------	-------

題目	歴史学研究の最前線(2) 日本史学・考古学のフロンティア
----	------------------------------

【授業の概要・目的】

歴史学研究の最前線で活躍する若手研究者が講師となり、リレー形式で最新の研究成果をわかりやすく紹介する。後期の授業では、日本史学・考古学を中心に、新しい研究の課題や手法に触れ、歴史研究への理解を深める手がかりを得ることを目的とする。

【授業計画と内容】

13名のゼミナール担当講師がリレー講義を行なう。次のような内容を予定している。

- (1)出土文字資料の研究方法
- (2)平安時代の后宮・皇太子
- (3)平安中期の東北支配と武士
- (4)日本中世貨幣史研究の現在
- (5)鎌倉幕府および室町幕府の裁判制度研究の最前線
- (6)仏教と日本中世村落
- (7)明治「青年」とナショナリズム 内藤湖南の場合
- (8)日唐律令の比較 上表の手続き
- (9)石器に映された過去人類の行動軌跡
- (10)土器からみる弥生社会の形成
- (11)供給地からみる南海産貝輪交易
- (12)弥生時代の木材利用と環境
- (13)ガンダーラ彫刻の年代学

* コーディネーター：杉山 正明

【履修要件】

特になし

----- 歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)へ続く -----

歴史基礎文化学系(ゼミナールII)(2)

[成績評価の方法・基準]

講義の感想を中心とする毎回の小レポートと、学期末のレポートにもとづいて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

受講生には、講師への質問や授業内容に関連する問題提起など、積極的に授業に参加することを期待する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)		担当者氏名	文学研究科 教授 櫻井 芳雄 非常勤講師 大瀧 翔 非常勤講師 武内 康則 非常勤講師 有園 真代 非常勤講師 江南 健志 非常勤講師 福浦 一男 非常勤講師 戸梶 民夫 非常勤講師 中島 満大 非常勤講師 木下 衆 非常勤講師 朴 沙羅 非常勤講師 石井 和也 非常勤講師 翁 和美 非常勤講師 渡邊 拓也 非常勤講師 柴田 陽一 非常勤講師 兼子 峰明 非常勤講師 浅尾 仁彦						
	配当学年	1回生以上		単位数	2	開講期	前期	曜時限	木5	授業形態
題目	行動文化学への招待									
【授業の概要・目的】										
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。										
【授業計画と内容】										
下記の分野やテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ます。 (大瀧)比較認知神経科学。(武内)歴史言語学の観点から見た契丹文字と契丹語。(有園)医療社会学、社会運動論、集合行動論、マイノリティ論。(江南)環境社会学。(福浦)地域社会学、文化人類学。(戸梶)セクシュアリティ論、理論社会学、外見論。(中島)歴史人口学、家族社会学。(木下)医療社会学。(朴)エスニシティ、移民研究。(石井)都市と地域の社会学。(翁)認知症をめぐる医療および介護の社会学。(渡邊)逸脱の社会学、19世紀フランスの社会史。(柴田)地理学史、中国研究。(兼子)視知覚と運動制御に関する比較認知科学。(浅尾)コーパス言語学、形態論、語彙意味論、計算言語学、認知言語学。										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
出席および期末に提出してもらったレポートによって評価します。										
----- 行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)へ続く -----										

行動・環境文化学系(ゼミナールⅠ)(2)

[教科書]

使用しない
ありません。教材は必要に応じて授業中に配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後に担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	行動・環境文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 櫻井 芳雄 非常勤講師 別役 透 非常勤講師 平松 千尋 非常勤講師 林 由華 非常勤講師 藤原 敬介 非常勤講師 北島 義和 非常勤講師 西川 純司 非常勤講師 安井 大輔 非常勤講師 山本 理子 非常勤講師 水野 英莉 非常勤講師 山内 熱人					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木5	授業形態
題目	行動文化学への招待									
【授業の概要・目的】										
行動文化系の分野で研究している新進気鋭の研究者たちが、この分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせて研究の始め方や、基本となる入門書、当初に遭遇する困難など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応えます。										
【授業計画と内容】										
下記のテーマについて扱う予定です。変更や追加もあり得ます。 (別役)比較認知科学。(平松)霊長類の視知覚の進化。(林)調査言語学。(藤原)比較言語学(北島)環境社会学、農村社会学、地域社会学。(西川)文化社会学。(安井)歴史社会学、比較社会学、食、エスニシティ、都市、階層。(山本)家族社会学、主婦と家事労働。(水野)身体とジェンダー、生殖技術、スポーツ。(山内)メキシコ農村と文化とその生活。										
【履修要件】										
特になし										
【成績評価の方法・基準】										
出席および期末に提出してもらうレポートによって評価します。										
【教科書】										
ありません。教材は授業中に配布します。										
【参考書等】										
(参考書) 授業中に紹介する										
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))										
オフィスアワーは特に設けませんが、授業の後で担当の講師と話し合ってください。また各講師ごとに授業に関するアンケートをします。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールⅠ) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 伊藤 和行 非常勤講師 佐藤 夏樹 非常勤講師 中尾 央 非常勤講師 大西 勇喜謙 非常勤講師 吉川 絢子 非常勤講師 田林 千尋					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	前期	曜時限	木5	授業形態
題目	現代文化学への招待									
【授業の概要・目的】										
現代文化学専攻の博士課程を修了した若手研究者が、現代文化学系を志す後輩達に、自分たちの最新の研究成果をふまえつつ、現代文化学系の学問についてわかりやすく講義します。										
【授業計画と内容】										
以下の予定で授業を進めます（括弧内は担当者名）。										
1週目：オリエンテーション（伊藤和行） 1～3週目：アメリカ社会とヒスパニック（佐藤夏樹） 4～6週目：科学的総合の歴史と哲学（中尾央） 7～9週目：科学的実在論論争入門（大西勇喜謙） 10～12週目：植民地朝鮮における離婚訴訟（吉川絢子） 13～15週目：古代ギリシア文芸論とその現代的意義（田中一孝）										
【履修要件】										
とくになし。授業は主として1，2回生を受講者に想定しておこないますが、3，4回生の受講も可。										
【成績評価の方法・基準】										
授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価します。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートの提出してもらいます。										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
（参考書） 授業中に紹介する										
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））										
この授業は、若手研究者のためのプレFDプログラムに参加しています。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	基礎現代文化学系(ゼミナールII) Relay Seminars for Undergraduate Students (Seminars)			担当者氏名	文学研究科 教授 永井 和 非常勤講師 富永 望 非常勤講師 岡内 一樹 非常勤講師 藤川 直也 非常勤講師 川寄 陽 非常勤講師 坂 堅太					
	配当学年	1回生以上	単位数		2	開講期	後期	曜時限	木5	授業形態
題目	現代文化学への招待									
【授業の概要・目的】										
現代文化学専攻の博士課程を修了した若手研究者が、現代文化学系を志す後輩達に、自分たちの最新の研究成果をふまえつつ、現代文化学系の学問についてわかりやすく講義する。										
【授業計画と内容】										
<p>授業は次の順番でおこないます。</p> <p>1週目：オリエンテーション</p> <p>1－3週目：京都市水道百年史（富永）</p> <p>4－6週目：朝鮮における「皇民化」政策と朝鮮（川寄）</p> <p>7－9週目：戦後日本の「労働」表象について（坂）</p> <p>10－12週目：現代社会と環境との関係について（岡内）</p> <p>13－15週目；存在しないものについて語る マイノング主義入門（藤川）</p>										
【履修要件】										
とくになし。授業は主として1，2回生を受講者に想定しておこなうが、3、4回生の受講も可。										
【成績評価の方法・基準】										
授業への参加態度と試験によって総合的に成績を評価する。試験は、各授業担当者が与える課題についてレポートの提出を求める。										
【教科書】										
使用しない										
【参考書等】										
（参考書） 授業中に紹介する										
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））										
この授業は、若手研究者のためのプレFDプログラムに参加しています。そのために毎回授業終了後に、授業について感想や意見を書いもらうアンケートを実施します。										
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。										

授業科目名 <英訳>	博物館学 I (講義) Museum Science I			担当者氏名	非常勤講師 佐々木 進				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	講義
題目	博物館概論								
【授業の概要・目的】									
近代日本での博物館のはじまりから博物館法の成立まで、及び博物館法の成立以後の変遷をとおして博物館の今日的課題を探り、博物館の専門的職員である学芸員の職務と博物館に関する基礎的事項の理解を図る。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について授業します。1 課題あたり 1 ~ 2 週の授業をする予定 1. 博物館の現状 2. 近代以前における博物館の濫觴 3. 博覧会から博物館の誕生へ 4. 博物館法成立までの博物館のあゆみ 5. 博物館法の制定 6. 博物館の定義と国際博物館会議 (ICOM) 規約 7. 博物館の事業 8. 館長と学芸員の役割 9. 博物館の設置及び運営上の望ましい基準 10. 博物館法と私立博物館 11. 博物館登録制度の問題点について									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業に基づいたレポート試験 (80%)、博物館見学レポート (20%)									
【教科書】									
授業時に参照する「博物館法」及び「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」を各自用意すること。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他 (授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
様々な分野の博物館をできるだけ多く見学すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	博物館学II(講義) Museum Science II			担当者氏名	非常勤講師 佐々木 進				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5	授業形態	講義
題目	博物館経営論								
【授業の概要・目的】									
市民参画型社会での多様化する需要にたいして博物館はどこまで応えているのか，入館者数や経費の効率性だけでは測れない新しい時代の博物館のマネジメントについて考える。特に博物館の使命・評価への取り組み，経営基盤，施設管理，だれにたいしても優しい博物館づくりについて考える。									
【授業計画と内容】									
以下の内容について授業します。1課題あたり1～2週の授業をする予定									
<ol style="list-style-type: none"> 1．新しい需要に応えるミュージアムマネジメントとは 2．博物館の望ましい姿を目指して 3．博物館の使命・目標 4．博物館の評価 5．指定管理者制度と博物館 6．市民参画社会における博物館 7．博物館と地域連携 8．多様化する博物館像 9．博物館における危機管理 10．高齢化社会における博物館の役割 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポート試験（授業に基づく課題レポート）									
【教科書】									
必要に応じて随時資料を配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
様々な分野の博物館をできるだけ多く見学すること。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	博物館学III(講義) Museum Science III			担当者氏名	京都国立博物館 学芸部企画室長			宮川 禎一	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水2	授業形態	講義
題目	博物館学 (博物館資料論)								
【授業の概要・目的】									
博物館・美術館の学芸員の仕事を博物館業務の実態をもとに具体的に講義する。特に作品・資料の取り扱い方法や収蔵庫や展示場での保存方法を中心に講義を進める。資料作品の収集・管理・研究・展示・運搬など資料にまつわる具体的作業について述べる。また京都国立博物館で実際に企画運営されている展覧会の実情を述べて博物館・美術館学芸員の役割への理解を深める。さらに実際の展覧会・展示場の見学もあわせて博物館美術館業務への認識を向上させることを目的とする。									
【授業計画と内容】									
1 博物館・美術館の成り立ち。 2 作品の種類にはどんなものがあるか 3 資料の収集の方法とは 4 資料の保管について 5 資料の保存処理 6 収蔵庫のこと 7 展覧会の作り方 8 展覧会図録の作り方 9 良い展覧会とは何か 10 博物館・美術館の未来 11 世界の博物館・美術館 12 ディスカッション									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
授業態度およびレポートの成績									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
学芸員資格を得るための授業であるため、受講生は自主的・積極的に博物館・美術館等の見学を行うことが望ましい。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	フランス語（中級）（語学） French			担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric				
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	月4	授業形態	語学
題目	Intermediate French								
【授業の概要・目的】									
<p>This class is aimed to those who wish to improve their reading, writing, and oral skills, in order to prepare a stay in a french-speaking country, or to get in touch with French-speaking people.</p> <p>The content and method will be focused on the preparation for the DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education. We shall start with the level A2 this semester (it is the second level, for almost beginners : the purpose is to develop the skills for any kind of basic situation of the daily life).</p>									
【授業計画と内容】									
<p>The class consists of various exercices, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French.</p>									
【履修要件】									
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.									
【成績評価の方法・基準】									
There shall be, at the end of the semester, a final in the proper conditions of the DELF-A2. However, the final grade will be given in consideration of the attendance and activity during the whole semester.									
【教科書】									
No comment									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>There is no office hour. Please discuss any appointment with the teacher.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語（中級）（語学） French	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	月4	授業形態	語学
題目	Intermediate French								
【授業の概要・目的】									
<p>This class is aimed to those who wish to improve their reading, writing, and oral skills, in order to prepare a stay in a french-speaking country, or to get in touch with French-speaking people.</p> <p>The content and method will be focused on the preparation for the DELF, the proficiency exam designed by the French Ministry of Education. During the autumn semester, we shall procede with the level B1 (elementary level, dealing with expressing oneself's opinion on a practical topic, with role playing in a common situation with, achieving a simple task).</p>									
【授業計画と内容】									
<p>The class consists of various exercices, fitting the schemes of the exam : oral and written comprehension, oral and written production.</p> <p>The class will be held in French.</p>									
【履修要件】									
All the students are welcome from the second academic year on, as soon as they have already studied French.									
【成績評価の方法・基準】									
There shall be, at the end of the semester, a final in the proper conditions of the DELF-B1. However, the final grade will be given in consideration of the attendance and activity during the whole semester.									
【教科書】									
使用しない no comment									
【参考書等】									
（参考書） no comment									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>There is no office hour. Please discuss any appointment with the teacher.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	語学
題目	Francais avance								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours s'adresse a des etudiants possedant deja une assez bonne maitrise du francais. Il offre une preparation aux examens organises par le Ministere francais de l'Education Nationale pour certifier les competences linguistiques et permettre l'acces aux etudes superieures en France, dans le systeme universitaire francais : le Diplome d'etudes en langue francaise (DELFF) et le Diplome approfondi de langue francaise (DALF).</p> <p>Le semestre de printemps est consacre a la preparation du DELFF B2, exige par de nombreuses universites francaises. Dans cette perspective, le cours comporte une initiation aux methodes de la synthese et de l'argumentation, a partir de la lecture de dossiers de presse documentaires portant sur la societe francaise.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>On travaillera sur les quatre types d'exercice de l'examen : comprehension et production ecrites, avec lectures de textes et redaction de courts essais ; comprehension orale, avec audition d'enregistrements publicitaires, radiophoniques, etc. ; production orale, avec des exposes et des debats sur des themes de societe.</p>									
【履修要件】									
<p>Pour suivre ce cours, un assez bon niveau de francais est souhaitable. Ce niveau correspond a un minimum de deux annees d'apprentissage du francais, ou a une annee de cours intensifs.</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>La note finale resultera d'une appreciation globale fondee sur les criteres suivants :</p> <ul style="list-style-type: none"> - assidueite - participation orale - travaux ecrits demandes deux ou trois fois pendant le semestre - examen final : entrainement a une epreuve complete du DELFF B2, a la fin du semestre (sous la forme d'un test d'1h30, et d'une composition a faire chez soi). 									
【教科書】									
pas de commentaire									
【参考書等】									
<p>（参考書） 特になし</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>Pas de permanence : prendre rendez-vous avec l'enseignant.</p> <p>NB : Due to improper settings, KULASIS is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	フランス語（上級）（語学） French	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 AVOCAT, Eric						
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	月5	授業形態	語学
題目	Francais avance								
【授業の概要・目的】									
<p>Ce cours s'adresse a des etudiants possedant deja une assez bonne maitrise du francais. Il offre une preparation aux examens organises par le Ministere francais de l'Education Nationale pour certifier les competences linguistiques et permettre l'acces aux etudes superieures en France, dans le systeme universitaire francais : le Diplome d'etudes en langue francaise (DELFF) et le Diplome approfondi de langue francaise (DALF).</p> <p>Le semestre d'automne est consacre a la preparation du DALF C1, necessaire pour etre admis dans certaines grandes ecoles. Dans cette perspective, le cours comporte une initiation aux methodes de la synthese et de l'argumentation, a partir de la lecture de dossiers de presse documentaires portant sur la societe francaise.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>On travaillera de maniere systematique sur les quatre types d'exercice de l'examen : comprehension et production ecrites, avec lectures de textes et redaction de courts essais ; comprehension orale, avec audition d'enregistrements publicitaires, radiophoniques, etc. ; production orale, avec des exposes et des debats sur des themes de societe.</p>									
【履修要件】									
<p>Pour suivre ce cours, un assez bon niveau de francais est souhaitable. Ce niveau correspond a un minimum de deux annees d'apprentissage du francais, ou a une annee de cours intensifs.</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>La note finale resultera d'une appreciation globale fondee sur les criteres suivants :</p> <ul style="list-style-type: none"> - assiduite - participation orale - travaux ecrits demandes deux ou trois fois pendant le semestre - examen final : entrainement a une epreuve complete du DELFF B2, a la fin du semestre (sous la forme d'un test d'1h30, et d'une composition a faire chez soi). 									
【教科書】									
<p>使用しない pas de commentaire</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） pas de commentaire</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>Pas de permanence : prendre rendez-vous avec l'enseignant.</p> <p>NB : Due to improper settings, KULASIS is unable to enter up the specific French graphic signs. I apologize about this regrettable fact.</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）（語学） Sumer	担当者氏名	国士舘大学 イラク古代文化研究所 研究員 森 若葉						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金1	授業形態	語学
題目	シュメール語（初中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残している。この言語は、楔形文字で記され、複雑な接辞体系で知られている。本授業は、シュメール語文法について概説をおこない、その古代の文献を実際に講読することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>前期は、初回授業で、楔形文字文献全般の概説を行う。2～3回目の授業で、その書記体系である楔形文字の成立としくみについて解説を行う。その後の授業で、シュメール語文法の解説を行い、適宜簡単なシュメール語資料を読む予定である。</p> <p>後期は、シュメール語資料の講読を中心におこない、資料ごとに文法の解説、問題点の指摘を行う。また死語となつてのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点、系統不明の古代語であるシュメール語の解読がどのようにおこなわれたのかについてもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキスト等である。なお、後期後半に楔形文字実習を1回予定している。</p>									
【履修要件】									
楔形文字の実習の際、粘土やカッターナイフ等を各自用意してもらう必要がある。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点および学年末レポートを予定。									
【教科書】									
なし。プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（初級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語（初級）								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。名詞クラスなどスワヒリ語の初級文法の理解を基本とし、語彙、基本文型、実際の会話表現なども学ぶことで、初級に相当する読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週はオリエンテーションを行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 あいさつ表現、自己紹介、動詞を使わない文（コピュラ・存在・所有）、現在時制・過去時制・未来時制・完了時制の表現、名詞クラスなど。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子 『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スワヒリ語（中級）（語学） Swahili	担当者氏名	非常勤講師 井戸根 綾子						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	スワヒリ語（中級）								
【授業の概要・目的】									
スワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。スワヒリ語の標準文法の理解をさらに深め、新たな語彙や慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力の習得を目指す。									
【授業計画と内容】									
第1週は初級で学習した文法の復習を行なう。 第2週より、以下の項目について学習する。 接続形、動詞の派生形（受身形・相互形・使役形・状態形など）、指示詞、条件節、関係節、ことわざ・格言など。 なお、学習の進度は適宜調整する。									
【履修要件】									
「スワヒリ語初級」受講者に限る。									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況、平常点、定期試験の結果により、総合的に判断する。 なお、3分の2以上の出席を必須とする。									
【教科書】									
竹村景子 『ニューエクスプレス スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08527-1									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（関連URL）									
http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swa/index.html (スワヒリ語独習コンテンツ)									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。 各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ギリシア語（2時間コース）（語学） Greek (2H)	担当者氏名	非常勤講師 早瀬 篤						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	ギリシア語文法（2時間コース）								
【授業の概要・目的】									
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を学ぶ。ギリシア語アルファベットの学習からはじめて、基本語彙、そして語形変化を中心とする初級文法を習得することを目指す。古典ギリシア語文献を読解するための準備をすることが狙いである。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>全70課ある教科書を、授業一回あたり2~3課進めて、通年で最後まで読み通す。毎回の授業では、文法事項のポイントの解説と練習問題（希文和訳・和文希訳）の答え合わせを行う。この他に、初級文法は複雑に変化する語形変化の暗記が中心となるので、その習熟度を確認する小テストを定期的に行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>基本的には、平常点（出席と小テスト）による。参加者の状況次第で、年度末に試験を行うことがある。</p>									
【教科書】									
<p>田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門・新装版』（岩波書店）ISBN:9784000225892 （旧版の田中美知太郎・松平千秋 『ギリシア語入門改訂版（岩波全書137）』（岩波書店）でも可）</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>授業に参加するためには、練習問題を解いて授業の準備をすることが必要である。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	ギリシア語(4時間コース)(語学) Greek (4H)	担当者氏名	非常勤講師 広川 直幸						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月1,木1	授業形態	語学
題目	ギリシャ語(4時間コース)								
【授業の概要・目的】									
古代ギリシャ語アッティカ方言の基礎を学ぶ。頻出語彙および基本的文法(特に屈折)を習得することによって、一年後には辞書等を参考にしながら独力で原典を読めるようになることを目指す。									
【授業計画と内容】									
全36課の教科書を一回に一課ずつ学習する。必要に応じて復習の回を設ける。まず学ぶべき古代ギリシャ語の文法とは、要するに屈折(語形変化)のことなので、授業の際、希文和訳の練習問題を解くだけでなく、屈折の口頭練習を徹底的に行う。また、新しい文法事項を導入する際に、日本人にとって理解が難しいであろう事柄について、重点的に解説を行い、彼我の発想法の違いを明確にする。教科書終了後は、平易なテキストの講読を行い、教科書で学んだ知識の定着を図る。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点を重視する。必要に応じて年度末に試験を行う。									
【教科書】									
水谷智洋『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)ISBN:4000008293									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ラテン語（2時間コース）（語学） Latin (2H)			担当者氏名	非常勤講師 堀川 宏				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木3	授業形態	語学
題目	ラテン語（2時間コース）								
【授業の概要・目的】									
ラテン語の基礎を学ぶ。記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながらラテン語原文（古代から近世までの）を読むための準備を整える。									
【授業計画と内容】									
下記教科書の構成（全19課）に従い、原則として一回につき一課のペースで進む。授業では文法事項の説明と練習問題の解説を行い、前回の授業内容を確認するための小テストを（原則）毎回実施する。さらに、2～3課ごとに1回の割合で復習のための回を設け、知識の定着を図る。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（毎回の小テストの点数を合算）による。期末試験は原則として行わない。									
【教科書】									
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社）ISBN:978-4560017616									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
毎回の授業に対して、相応の予習と復習が必要である。具体的な内容は授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ラテン語（４時間コース）(語学) Latin (4H)	担当者氏名	非常勤講師 佐藤 義尚						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月3,金2	授業形態	語学
題目	ラテン語（４時間コース）								
【授業の概要・目的】									
ラテン語の初歩的知識を学び、古典期から近世にいたるまでのラテン語文献が読めるようになることを目標にする。またラテン語を学習することでヨーロッパ諸語の理解を深めることができよう。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。									
【授業計画と内容】									
授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題をおこなう。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を文法事項に注意しながら読んでいく。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点と期末の筆記試験									
【教科書】									
松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:4-8096-4301-8									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スペイン語(初級)(語学) Spanish			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 長谷川 信弥				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火4	授業形態	語学
題目	スペイン語(初級)								
【授業の概要・目的】									
スペイン語の初級文法を教科書に沿って学習する。授業は文法事項の解説と練習問題からなる。初級文法を一通り学習するので進度が速く、そのため予習は必須である。									
【授業計画と内容】									
第1週：オリエンテーション、文字と発音 第2 - 4週：第1 - 2課[名詞、冠詞、主語人称代名詞、動詞現在形など] 第5 - 7週：第3 - 4課[ser・estar・hay、所有詞、指示詞など] 第8 - 11週：第5 - 6課[目的格人称代名詞、gustar構文など] 第12 - 15週：第7 - 8課[点過去、比較表現、疑問詞、感嘆文など]と試験 第15 - 18週：第9 - 10課[線過去、時刻表現、現在完了、過去完了など] 第19 - 20週：第11 - 13課：[未来形、接続法の活用、使役の構文など] 第21 - 24週：第14課[命令形、接続法] 第25 - 26週：文法補遺の確認 第27 - 30週：復習および試験									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験(筆記、年2回、80%)、出席点(20%)									
【教科書】									
中岡省治・他著『スペイン語への架け橋』(白水社)ISBN:978-4-560-01673-2									
【参考書等】									
(参考書) 辞書：『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館) 辞書：『現代スペイン語辞典』(白水社) 上田博人『スペイン語文法ハンドブック』(研究社)ISBN:978-4-327-39420-2(中級まで対応した新しい文法解説書(3,200+税))									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
特になし									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	スペイン語（中級）（語学） Spanish			担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 長谷川 信弥				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	語学
題目	スペイン語（中級）								
【授業の概要・目的】									
<p>スペイン語の初級文法を終えた学生を対象とし、比較的容易なスペイン語のテキストを講読する。新聞記事や小説など様々な種類の文章を読み、読解力の向上を目指す。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>授業では、まずスペイン語初級文法を復習するため、初級文法の参考書を参照しつつ、平易なスペイン語文を読み、これまでの文法知識を確認していく。 そのうえで、比較的容易なスペイン語テキストを講読していくが、履修者は毎回の授業で、与えられたテキストを日本語に訳すこととする。そのため、毎回の授業前の予習は必須である。 講読するテキストは受講者の希望も取り入れるが、容易なテキストから始め、新聞記事や短編小説を中心とした文学作品も講読の対象とし、さまざまな種類の文章に慣れるよう努力する。</p>									
【履修要件】									
<p>スペイン語の初級文法が修得済みであること。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>試験（年2回、筆記、80%）、平常点(出席点等、20%)</p>									
【教科書】									
<p>プリントを配布する。</p>									
【参考書等】									
<p>（参考書） 上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級までを対象とした新しい文法参考書(3,200+税)）</p>									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>特になし</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	イタリア語（初級4時間コース）（語学） Italian (4H)	担当者氏名	非常勤講師 菅野 類						
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火3,金2	授業形態	語学
題目	イタリア語（初級）								
【授業の概要・目的】									
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソドックスなものを想定している。イタリア語に興味のある初心者を対象とするが、相応の努力は求められる。毎回予習を行い、自分が理解できる部分とそうでない部分を明らかにしたうえで授業に望むことが望ましい。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞] 第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere] 第4週：Lezione 3 [形容詞] 第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞] 第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞] 第7週：Lezione 6 [人称代名詞] 第8週：Lezione 7 [再起動詞] 第9週：まとめ・テスト 第10週：Lezione 9 [直説法近過去] 第11週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去] 第12週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来] 第13週：Lezione 12 [受動態] 第14週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第15週：まとめ・テスト</p> <p>第16週：Lezione 14 [関係詞] 第17週：Lezione 15 [ジェルンディオ・ceとne の解説] 第18週：Lezione 8 [命令法] 第19週：Lezione 16 [条件法] 第20週：Lezione 17 [接続法] 第21週：まとめ・テスト 第22 - 30週：遠過去および講読</p> <p>学習の理解度に応じて、変更される場合がある。</p>									
【履修要件】									
特になし									
----- イタリア語（初級4時間コース）（語学）(2)へ続く -----									

イタリア語（初級4時間コース）(語学)(2)

[成績評価の方法・基準]

平常点 50%
試験 50%

[教科書]

杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5

[参考書等]

（参考書）

郡史郎・池田廉 『ポケットプログレッシブ 伊和・和伊辞典』（小学館）ISBN:4-09-506121-9

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	イタリア語会話（中級）（語学） Spoken Italian	担当者氏名	文学研究科 特定准教授 ダニエラ・ヴァガータ						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火5	授業形態	
題目	イタリア語会話（中級） Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)								
【授業の概要・目的】									
Il corso si propone lo sviluppo delle quattro abilità base della comunicazione (parlare, scrivere, leggere e ascoltare), con una particolare attenzione alla comunicazione orale.									
【授業計画と内容】									
Attraverso lo studio di alcuni temi vicini ai bisogni reali della vita in Italia, si applicano le nozioni grammaticali precedentemente studiate, e si acquisisce gradualmente il nuovo lessico rilevante ai fini del tema trattato. Sarà dato ampio spazio alla conoscenza di alcuni aspetti preponderanti della cultura italiana attraverso l'ascolto di canzoni, la visione di film, e la lettura di brevi articoli dai principali quotidiani italiani. E' inoltre previsto il ripasso e l'approfondimento di alcune nozioni di sintassi e di grammatica della lingua italiana attraverso lo svolgimento di alcune esercitazioni scritte e orali.									
【履修要件】									
Questo corso e' rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facolta'.									
E' indispensabile una conoscenza basilare della lingua italiana.									
【成績評価の方法・基準】									
E' ammessa una sola assenza. E' previsto un esame finale.									
E' richiesta una partecipazione attiva da parte dello studente.									
【教科書】									
Il materiale verra' distribuito in dispensa settimanalmente.									
【参考書等】									
（参考書） 特になし									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	朝鮮語(初級)(語学) Korean	担当者氏名	京都産業大学 文化学部 准教授 朴 真完						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水2	授業形態	語学
題目	朝鮮語(初級)								
【授業の概要・目的】									
文字と発音の解説からはじめて、用言の活用、助詞の用法、接続語尾にいたるまで、初級文法を一 通り解説する。各課の内容は以下の文法事項のほか、簡単な会話を含む。また、適宜文化、歴史の 話題を折り込み韓国・朝鮮についての理解も深めてゆきたい。									
【授業計画と内容】									
学習する主要な文法項目は以下の通りである(順不同)。									
1) 文字と発音、2) 音変化、3) 丁寧語尾二種(平叙、疑問)、4) 尊敬、5) 基本的な接続語尾、6) 時 制(過去・未来)、7) 連体形、8) 否定・禁止、9) 数詞と助数詞、10) 助詞の形式と用法、11) 変則活 用									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点10%、小テスト30%、期末試験60%									
【教科書】									
熊谷明泰(2011) 『(初級韓国朝鮮語教材)アリラン』(朝日出版社) 教科書のほか、適宜プリント教材を使用する。									
【参考書等】									
(参考書) 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編(1993) 『朝鮮語辞典』(小学館)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業は教科書に沿って行いますので、事前に教科書を購入して下さい。 授業時に指示する。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	朝鮮語(中級)(語学) Korean			担当者氏名	人文科学研究所 教授 金 文京				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	朝鮮語(中級)								
【授業の概要・目的】									
初級修了者を対象として、中級程度の文法の習得、会話、読解能力の養成を目的とする。具体的には新聞が読め、日常の会話ができる程度を目指したい。また韓国・朝鮮に関する研究を志す者に対しては、その分野の専門論文が読めるよう関連する知識を教授する。									
【授業計画と内容】									
初級の継続として、同じ教科書を使い、必要な文法事項、関連知識について説明し、練習を行う。あわせて韓国の新聞記事などを使用して、聞きとり、会話能力を習得させる。また出席者の希望があれば、雑誌論文、小説、テレビドラマなどを教材として、最終的に通常の文章が読め、日常会話ができるレベルを目指す。また作文能力向上のため、作文の宿題を課する。									
【履修要件】									
朝鮮語の初級を履修したか、それと同等のレベルの学習者であること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点(出席)と筆記試験により評価する。									
【教科書】									
熊谷明泰 『初級韓国朝鮮語教材アラン』(朝日出版社) ISBN:978-4.255-55618-5C1097									
【参考書等】									
(参考書)									
菅野裕臣監修(1987) 『朝鮮語を学ぼう』(三修社)									
生越直樹(2009) 『ことばの架け橋 中級表現編』(白帝社)									
(関連URL)									
kin@zinbun.kyoto-u.ac.jp									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
授業時に指示する。オフィスアワーは木曜午前11時 - 12時。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit (2H)			担当者氏名	白眉センター 助教 置田 清和				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木4	授業形態	語学
題目	サンスクリット初級文法(2時間コース)								
【授業の概要・目的】									
<p>サンスクリット語は南アジアにおいて発生した文化、哲学、宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)を理解する為に欠かせない言語である。また、インド・ヨーロッパ語族の一部として重要な位置を占めるサンスクリット語を学ぶことは、西洋古典、言語学を学ぶ者にとっても有益である。このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけさせることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>文法事項の解説と練習問題による読解演習とを平行して授業を進める。扱う主な文法事項は：</p> <p>サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3週) 名詞・形容詞曲用(第4-9週：母音語幹、第10-15週：子音語幹) 複合語、代名詞、数詞(第16-17週) 動詞現在活用(第18-19週：第1種活用、第20-23週：第2種活用) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第24-29週) まとめ(第30週)</p> <p>授業の進行は学習の理解度に応じて調整する場合がある。</p>									
【履修要件】									
予備知識は必要ない。幅広い専攻からの受講を歓迎する。									
【成績評価の方法・基準】									
平素の成績と筆記試験による。特に平常点(出席率、毎週の小試験、および宿題)を重視する。									
【教科書】									
J.ゴンド(鎧淳訳)『サンスクリット語初等文法』(春秋社)ISBN:4393101081									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>毎回宿題を課す。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間前期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	サンスクリット(4時間後期コース)(語学) Sanskrit (4H)			担当者氏名	文学研究科 特定外国語担当教授 VASUDEVA, Somdev				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月5,木5	授業形態	語学
題目	Sanskrit Grammar								
【授業の概要・目的】									
An introduction to the Sanskrit language for beginners. This class aims to cover the basics of Sanskrit Grammar in one term.									
【授業計画と内容】									
We will focus on covering the material taught in R. Goldman's Devavanipraveshika, reading all of the exercises and actively translating into Sanskrit. Supplementary materials and exercises will be provided as necessary.									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Attendance, participation, quizzes.									
【教科書】									
1) Devavanipravesika: An Introduction to the Sanskrit Language (Paperback) by Robert P. Goldman (Author), Sally J. Sutherland (Author), Paperback, Publisher: Center for South & Southeast; 2nd Rev edition (August 1987), ISBN-10: 0944613004, ISBN-13: 978-0944613009 Arthur A. MacDonell, A Sanskrit Grammar for Students (OUP, 1971)									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew			担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢				
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	ヘブライ語解釈の基礎（１）								
【授業の概要・目的】									
<p>ヘブライ語、文字、テキストほかの歴史的概要に加えて、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、動詞／分詞ほか）の導入。授業では、聖書やイスラエルの幼児向け絵本やラビ・ユダヤ教テキストの例文を用いて、文法情報とテキスト解釈との関係にも注意を払う。ヘブライ語文法の哲学的意義・思想的特徴についても授業では言及する。</p> <p>目標：ヘブライ語の文字と母音記号を認識して声に出して読めること書けること。名詞と形容詞の変化、人称代名詞と前置詞の人称変化が認識できること。完了・未完了に関わらない動詞（分詞）を含む文章構造を理解し和訳できること、ヘブライ語作文できること。辞書を利用できること。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1．ヘブライ語の歴史（聖書ヘブライ語と賢者のヘブライ語ほか）、2．母音記号と文字、3．形容詞と名詞（男性形と女性形他）、4．形容詞と名詞（単数形と複数形他）、5．人称代名詞と指示代名詞、6．数詞と前置詞、7．語根と動詞、8．7つの動詞、9．名詞文、10．存在の名詞ほか。＊1課題あたり1～2回を当てる。内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価・・・出席と授業参加（30％）、宿題（30％）、期末テスト（40％）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>授業では、文字や母音記号を覚えるためのエクササイズ的な共同作業も取り入れている。文法の習熟のための練習問題、また文法の解釈的意義を確認するテキスト解釈も授業内で行う。初級と中級をあわせての履修が好ましい。最終的には、現代ヘブライ語辞書他を使って独力で、様々な時代の文章を読めるようにすることを目標とする。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（中級）（語学） Hebrew			担当者氏名	非常勤講師 手島 勲矢				
配当学年	3回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	ヘブライ語解釈の基礎（２）								
【授業の概要・目的】									
<p>前期に引き続き、ヘブライ語文法の基礎（特に動詞の完了形・未完了形の基礎）を練習を通して身に付ける。動詞および文構造での聖書ヘブライ語と賢者のヘブライ語の差異を紹介する。目標は、動詞／完了・未完了の変化に習熟すること。不規則変化を語根パターンにおいて認識できること。完了・未完了の動詞を含むヘブライ語文章を理解し翻訳できるようになること。聖書ヘブライ語の基本的な特徴を理解すること。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1．完了形（基本）、2．未完了形（基本）、3．不規則変化（III-h/y）、4．不規則変化（II-w/y、I-y）、5．不規則変化（I-n、II&III-Geminated）、6．不規則変化（喉音文字を含む語根）、7．人称接尾辞と不定詞と命令形、8．時制の問題、9．聖書ヘブライ語と賢者のヘブライ語、10．まとめ。1課題あたり1～2回の授業を要する。進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。</p>									
【履修要件】									
ヘブライ語（初級）を履修している、もしくは同程度のヘブライ語の知識があること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点評価・・・出席・授業参加（30％）、クイズ・宿題（30％）、期末テスト（40％）									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
<p>中級では実地にヘブライ語テキストを辞書を引きながら読んでいく。テキストは思想・哲学・言語に関する易しい論文の抜粋、また聖書、ミシュナー・タルムード他、からのサンプル的文章等を考えている。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）（語学） Iranian	担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 森 茂男						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	イラン語（初級）								
【授業の概要・目的】									
現代ペルシア語の文法について学ぶ。基礎とはいえ、ペルシア語の読解に必要な十分な文法事項を習得する。後期の途中からは古典ペルシア語文献を含む平易なテキストを用いて読解力の基礎を身につける。									
【授業計画と内容】									
教科書にしたがって授業一回につき、一課半ほどのペースで進む。文法を終了すると（多分、10月半ば）平易なテキストを使って読解力の養成に努める。取り扱うテキスト：現代語による古典説話の再話2編。10世紀の歴史書『タバリーの歴史（ペルシア語訳）』からイスカンダル（アレキサンダー）の章、アッタール『神秘主義者列伝』の一部、など。いずれも平易な内容で、読解力の基礎を養うのに相応しいものである。なお、この授業計画は受講者の理解状況に応じて変更することがある。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
原則として、特に試験は行わない。出席点と平常点によって総合的に評価する。									
【教科書】									
森茂男『ペルシア語初級文法』（最初の授業時に配布） 後期の途中から使用する読解用テキストは10月のはじめに配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 黒柳恒男『現代ペルシア語辞典』（大学書林） 参考書の詳細については初回の授業時に説明する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（初級）（語学） Tibetan	担当者氏名	愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	月1	授業形態	語学
題目	チベット語初級								
【授業の概要・目的】									
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p> <p>テキストは、プリントとして配布する。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
<p>成績は、出席点および学期末に行う試験によって決定する。 チベット語の文法事項を十分に理解していることが期待される。</p>									
【教科書】									
プリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	チベット語（中級）（語学） Tibetan	担当者氏名	文学研究科 准教授 宮崎 泉						
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金3	授業形態	語学
題目	チベット語（中級）								
【授業の概要・目的】									
この授業は、チベット語初級を学んだ学生がチベット語文献を読解しながら、チベット語文法に対する理解をさらに深め、チベット語文献の読解能力を高めることを目的とする。本年度は仏教文献を取り上げるが、仏教文献の中で使われるチベット語も多様であるため、なるべく多くの分野の仏教文献を取り上げて、どの分野の仏教文献にも対処できる基礎的な能力を身につけることを目指す。									
【授業計画と内容】									
授業では、時代によるチベット語自体の違いや、翻訳文献の中でも経典や注釈といったスタイルの違いも網羅するために、以下のような文献を順に取り上げる予定である。1. 古チベット語を含む仏教文献、2. サンスクリット経典からの翻訳文献、3. サンスクリット注釈からの翻訳文献、4. チベット撰述文献。それぞれの文献の読解にあたり、そこに現れるチベット語の特徴の解説と読解のために必要な内容の説明を行う。その後各文献を三～四週程度かけて輪読する。									
【履修要件】									
チベット語初級文法を終えていること。読解に必要な仏教の知識は授業の中で説明するので、仏教に関する知識は前提としない。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点。出席と授業の中で発表の内容により評価する。									
【教科書】									
授業中にプリントを配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）（語学） Arabic	担当者氏名	国立民族学博物館 研究戦略センター 教授・副館長 西尾 哲夫						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	アラブ語								
【授業の概要・目的】									
現代アラビア語の初級程度の文法を習得することを目標にする。また基本的な会話ができることをめざす。									
【授業計画と内容】									
アラビア語の歴史やアラビア語を使用する社会ならびにイスラームとの関係について簡単にふれたのち、アラビア語を学習する上で必携すべき辞書等の参考文献について紹介する。アラビア文字の習得から初級文法について講義する。またアラビアンナイト等のアラブ文学についてもアラブ文化理解の一環として紹介する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況ならびに平常点による。									
【教科書】									
こちらで配布する。									
【参考書等】									
（参考書） 西尾哲夫・師岡カリマ・エルサムニー 『CD版エクスプレス エジプト・アラビア語』（白水社） 西尾哲夫 『アラビアンナイト 文明のはざまに生まれた物語（岩波新書）』（岩波書店） 西尾哲夫 『世界史の中のアラビアンナイト』（NHK出版）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業時に指示する。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級Ⅰ）（語学） Polish	担当者氏名	文学研究科 教授 佐藤 昭裕						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金4	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級Ⅰ								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の初級文法を習得する。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語はスラブ諸語の一つとして、チェコ語、スロヴァキア語とともに、西スラブグループを構成する。文字は、ロシア語とは異なり、普通のローマ字に必要な改変記号をつけて使用する。この授業では、文字の読み方、母音と子音の発音から始めてポーランド語の初級文法を教科書に沿って学習する。概ね次のような文法項目を学習する。名詞の性の区別、単数形と複数形、男性名詞・女性名詞・中性名詞の格変化、人称代名詞の変化、形容詞的代名詞の変化、形容詞の変化、動詞の現在形・過去形・未来形、非人称文、動詞の体（アスペクト）、命令法、能動分詞と受動分詞の作り方、前置詞の用法、仮定法など。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席状況と学年末に行う試験の両方で評価する。									
【教科書】									
石井哲士朗・三井レナータ著 『ニューエクスプレス ポーランド語』（白水社）ISBN:978-4-560-06794-9									
【参考書等】									
（参考書） 木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
教科書を中心に授業を行うので、毎回、各自予習・復習を怠らないこと。最初の授業時に教科書を購入して持参してください。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（初級II）(語学) Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	ポーランド語初級								
【授業の概要・目的】									
ポーランド語の基礎的な能力を身につけるための授業です。文法の実用的な知識の他に、ポーランド語を聞く能力、発音する能力、簡単な発言をする能力を取得するための、バランスのとれた言葉の学習を志します。									
【授業計画と内容】									
挨拶や自己紹介をはじめとして、基本的なポーランド語の使い方を学ぶために様々な練習を行います。教科書の他に、生のポーランド語の資料も取り入れて、なるべく自然な言葉にふれる機会を与えます。受講生のレベルと進み具合に合わせて、具体的な授業の内容を計画します。									
【履修要件】									
特にありませんが、「ポーランド語初級」と並行して出席することが望ましいです。									
【成績評価の方法・基準】									
基本的に後期末の試験での評価となります。授業での積極的な姿勢も考慮します。									
【教科書】									
授業中に資料を配布します。									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ポーランド語（中級II）（語学） Polish	担当者氏名	非常勤講師 Bogna Sasaki						
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	水4	授業形態	語学
題目	ポーランド語中級								
【授業の概要・目的】									
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力の向上を目指します。									
【授業計画と内容】									
ポーランド語の文法の基礎と基本的な語彙力を持つ学生を対象に、会話、聴解、読み書き等の、能力を高める練習を行います。 教科書の他に生のポーランド語の資料も使い、様々なテキストに触れながら、自然な言葉の使い方を身につけることを目指します。									
【履修要件】									
ポーランド語の文法の基礎知識、また簡単に自己紹介したり家族・趣味等について話したりすることができるような語彙力が要求されます。									
【成績評価の方法・基準】									
基本的に後期末の試験での評価となります。授業での積極的な態度も考慮します。									
【教科書】									
授業中に資料を配布します。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	モンゴル語（初級）（語学） Mongolian	担当者氏名	大阪大学 大学院言語文化研究科 教授 塩谷 茂樹						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金2	授業形態	語学
題目	モンゴル語初級								
【授業の概要・目的】									
キリル文字による現代モンゴル語（モンゴル国の標準語、モンゴル語・ハルハ方言を指す）の初級レベルの基礎文法の総合的習得を目標とします。									
【授業計画と内容】									
文字と発音を最初に学習します。特に、日本語と異なる発音を徹底的に学びます。その後第1課～第20課からなるテキスト（会話を含む）を教科書として用い、各課の文法説明、練習問題、テキストの解説、発音練習の順で授業を進めます。必要に応じ、モンゴルの文化習慣にも触れ、皆さんをモンゴルの世界にいざないます。									
【履修要件】									
語学に興味のある人なら誰でも大歓迎します。事前の知識は全く必要ありません。一からすべてお教えします。									
【成績評価の方法・基準】									
定期試験は行いません。評価は出席を最重要視し、残りは授業態度・授業の積極的参加によって、総合的に判断します。									
【教科書】									
塩谷茂樹、E・プレブジャブ著『初級モンゴル語』（大学書林2001）									
【参考書等】									
（参考書） 塩谷茂樹、Y a . バダムハンド『初級モンゴル語練習問題集』（大学書林2011）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
授業は教科書（『初級モンゴル語』大学書林2001）に沿って行いますので、出席者は事前に教科書を購入しておいて下さい。									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（初級）（語学） Hindi			担当者氏名	追手門学院大学 国際教養学部アジア学科 講師 小松 久恵				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	金5	授業形態	語学
題目	ヒンディー語（初級）								
【授業の概要・目的】									
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。									
【授業計画と内容】									
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。幸い、ヒンディー語は文法が簡単で、日本語に極めてよく似ているので、日本人学習者にとり習得することはそれほど困難ではないであろう。教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。									
【履修要件】									
授業には継続的に参加すること。									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（40％）と筆記試験（期末30、年度末30）によって評価する。									
【教科書】									
町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:ISBN978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）									
【参考書等】									
（参考書） 辞書については初回の授業で紹介する。									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（中級）（語学） Hindi	担当者氏名	大阪大学世界言語研究センター 西岡 美樹 専任講師						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	火3	授業形態	語学
題目	ヒンディー語（中級）								
【授業の概要・目的】									
この授業では、研究に必要なテキストを正確に理解できるよう、ヒンディー語の中級および上級文法を導入し、読解力の向上を目指す。また、必要に応じ、映像・音声メディアも利用し読解力と相関関係にある聴解力の向上も図る。									
【授業計画と内容】									
本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。									
第 1～5週目：（アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話など）									
第 6～10週目：（短編：インド神話）									
第12～15週目：（TV版Ramayanaシナリオ）									
なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。									
【履修要件】									
ヒンディー語初級文法を終えた学生。授業には継続的に参加すること。									
【成績評価の方法・基準】									
授業への積極的な参加（40%）、期末試験（60%）									
【教科書】									
授業中にコピーを配布。									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	オランダ語（初級）（語学） Dutch			担当者氏名	人間・環境学研究科 教授 河崎 靖				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	通年	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	オランダ語 初・中級								
【授業の概要・目的】									
オランダ語の総合的な語学力を養成することを目標とする。									
【授業計画と内容】									
入門レベルの文法解説から始め、話す・聴く能力を高めるドリルも行き、後期には専門的なテキストにもチャレンジできるくらいのレベルを目指す。併せて、ランデスクンデ的な情報を盛り込み、ゲルマン語の中でも低地諸国 (Low Countries)における言語事情がいかなるものなのか講義する。専門分野を問わず熱心な参加を期待する。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
基本的に平常点による。積極的な授業参加が望まれる。									
【教科書】									
こちらでプリント教材を準備する。									
【参考書等】									
（参考書） 河崎 他 『オランダ語の基礎』（白水社） 河崎 他 『低地諸国の言語事情』（大学書林）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
特になし。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語(語学) English	担当者氏名	高等教育研究開発推進機構 特定外国語担当講師 服部 美樹						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	語学
題目	英文インタビューを読む								
【授業の概要・目的】									
<p>英文のインタビュー記事を読む。質疑応答という流動的な形態の中で、論点をつかむ読解力を訓練する。また、踏み込んだ議論をする際の質疑応答のパターンを知りそれに慣れること、さらには当該話題について簡単な議論ができるレベルに到達することを目指して学習する。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>教科書として、日本の様々な分野で活躍する著名人が、自然や環境問題に関して論じているインタビュー集を用いる。英文は平易で、注釈も付いているので読みやすい教材である。1課から順に取り上げていく予定。</p> <p>授業では、まず英文を精読したうえで、練習問題で論点の確認などをしながら内容を振り返りたい。前もって担当者を決めることはせず、出席者に少しずつ音読と訳を担当してもらおう予定である。従って、全員全範囲に目を通してることが求められる。インタビューを断片的、部分的に理解して終わるのではなく、ひとつひとつの発言がどのような文脈の中でなされているのか、ということを確認しながら読んでいきたい。またグループでのインタビュー練習、音読練習なども随時行う。</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
平常点（授業への参加状況）と英文レポート（1回）で総合的に評価する。									
【教科書】									
ASLE-Japan/文学・環境学会 『Echoes of the Environment』（鶴見書店）ISBN:4-7553-0322-2									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語(語学) English	担当者氏名	未定						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	語学
題目									
[授業の概要・目的]									
[授業計画と内容]									
[履修要件]									
特になし									
[成績評価の方法・基準]									
[教科書]									
[参考書等]									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	英語(語学) English	担当者氏名	高等教育研究開発推進機構 特定外国語担当講師 N . リー						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	水1	授業形態	語学
題目	Introduction to global studies								
[授業の概要・目的]									
<p>This is an integrated course on English and global studies. It provides an introduction to world cultures, mostly in the recent or present world. Tentative topics for this course are: globalization, religions, global conflicts (wars), economics and politics.</p> <p>Classes will be based on group work, student-centered discussions and presentations.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Unit 1: Globalization</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Where we live affect how we live. 2. Social and cultural developments. 3. Globalization increases movements (barriers). 4. Immigration 5. Gender <p>Unit 2: Religions</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Religion is inseparable from society. 2. Movements and developments of religions. 3. Religions bring people together but often push people apart. <p>Unit 3: Global conflicts</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Wars 2. Military 3. Competition for resources <p>Unit 4: Economics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Resources are scarce. 2. Everything has an opportunity cost. 3. Labor 4. International trades. 5. Everyone's spending is someone else's income. <p>Unit 5: Politics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Role of government 2. Liberty vs. security 3. Majority and minority <p>2~5 weeks will be spent on each topic.</p>									
----- 英語(語学)(2)へ続く -----									

英語(語学)(2)

【履修要件】

This course will be taught in English. Students are expected to take both spring and fall semesters.

【成績評価の方法・基準】

In-class performance, discussions, group work, homework, reports and presentations

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語(語学) English	担当者氏名	高等教育研究開発推進機構 特定外国語担当講師 N . リー						
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	水1	授業形態	語学
題目	Introduction to global studies								
[授業の概要・目的]									
<p>This is an integrated course on English and global studies. It continues the introduction to world cultures, mostly in the recent or present world. Tentative topics for this course are: globalization, religions, global conflicts (wars), economics and politics.</p> <p>Classes will be based on group work, student-centered discussions and presentations.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>Unit 1: Globalization</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Where we live affect how we live. 2. Social and cultural developments. 3. Globalization increases movements (barriers). 4. Immigration 5. Gender <p>Unit 2: Religions</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Religion is inseparable from society. 2. Movements and developments of religions. 3. Religions bring people together but often push people apart. <p>Unit 3: Global conflicts</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Wars 2. Military 3. Competition for resources <p>Unit 4: Economics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Resources are scarce. 2. Everything has an opportunity cost. 3. Labor 4. International trades. 5. Everyone ' s spending is someone else ' s income. <p>Unit 5: Politics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Role of government 2. Liberty vs. security 3. Majority and minority <p>2~5 weeks will be spent on each topic.</p>									
----- 英語(語学)(2)へ続く -----									

英語(語学)(2)

【履修要件】

This course will be taught in English. Students are expected to take both spring and fall semesters.

【成績評価の方法・基準】

In-class performance, discussions, group work, homework, reports and presentations

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing	担当者氏名	非常勤講師 大崎 紀子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	アカデミック・ライティング(1)								
【授業の概要・目的】									
<p>学術論文やエッセイ(小論文)などの論理的な文章を英語で書く能力を養成する。前期では、パラグラフの構造を学び、英文を読むことを通じて論理的な文章構成への理解を深め、自らの視点を反映した論理的な文章を英語で書く活動を行う。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>1 アカデミック・ライティングについての説明 2-4 パラグラフの構造の理解 5 句読法 6-9 パラグラフ・ライティングの演習 10 つなぎ言葉(transition words) 11-14 小論文作成演習:受講者の作文に基づく内容・構成の検討を含む 15 まとめ</p>									
【履修要件】									
受講者20人まで									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加(30%)、アサインメント(70%)									
【教科書】									
プリント教材を配布する。									
【参考書等】									
(参考書)									
Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman,2006.)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
<p>課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方についても学ぶ。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>									

授業科目名 <英訳>	英語論文作成法(演習) Introduction to Academic Writing	担当者氏名	非常勤講師 大崎 紀子						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火4	授業形態	演習
題目	アカデミック・ライティング(2)								
【授業の概要・目的】									
英文アブストラクト、要約、引用、文献目録の書き方など、英語論文を書くための基本的な方法論を学び、英語で学術論文を書く能力を養う。									
【授業計画と内容】									
1 アカデミック・ライティングの説明 2-5 要約の書き方と演習 6-8 引用の方法と演習 9 スタイル(MLA、APA、Chicagoスタイル等) 10 文献目録の書き方と演習 11-14 小論文作成演習：受講者の作文に基づく議論、検討を含む 15 まとめ									
【履修要件】									
前期を受講していることが望ましい。(受講者20人まで)									
【成績評価の方法・基準】									
授業参加(30%)、アサインメント(70%)									
【教科書】									
プリント教材を配布する。									
【参考書等】									
(参考書) Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』(Pearson Longman,2006.)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
課題の提出は、原則として電子メールを利用し、メールによる教員とのやり取りを英語で行うこと によって、英文メールの書き方も学ぶ。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	書道(演習) Calligraphy	担当者氏名	非常勤講師 日比野 実						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	書道								
【授業の概要・目的】									
この講義は、東洋文化の根幹である「漢字」の成り立ちからを時系列に概観し、篆書・隸書・楷書を実際に書写しながら学んでいく。教職員となることを前提にした書道技術の向上のみを狙うものではない。									
【授業計画と内容】									
1 週目：ガイダンス・書とは何か？ 2～5 週目：漢字の始まり「甲骨文・金文」から「小篆」 6～9 週目：漢代に花開き、今なお輝きを持つ「隸書」 10～15 週目：唐代に完成をみて、標準書体となった「楷書」									
授業ではスクリーンでのプレゼンテーションやビデオ、書画カメラを用いて、歴史的側面と技法的側面を解説した後に、実技を行う。									
【履修要件】									
実技を伴う科目であるので、毎回の書道道具の携帯が必要となる。									
【成績評価の方法・基準】									
清書の完成度 4：レポート 3：平常点 3 程度を考えている。									
【教科書】									
使用しない テキストは用いず、毎回 1～3 枚程度のプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 実際の書に触れるために、書展に出向くことを推奨する。 折につけ書展の情報などを告知する。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
質問は jitsu0301@gmail.com まで。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	書道(演習) Calligraphy	担当者氏名	非常勤講師 日比野 実						
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金4	授業形態	演習
題目	書道								
【授業の概要・目的】									
書道の後期には、より芸術性を帯びた書体を学んでいく。つまり、文字そのものに書き手の人間性が表れる行書・仮名書を中心に学ぶ。特徴をよく理解した上で技法を体得したい。									
【授業計画と内容】									
1週目：ガイダンス「芸術としての書～道具から美へ～」 2～7週目：文字に躍動感を表現する「行書・草書」王羲之、顔真卿、蘇軾、黄庭堅など 8～12週目：日本人の心の原点「仮名書」奈良時代の万葉仮名から平安後期の女手に至る表記の変遷と美的感覚の推移。 13～15週：生活の中での書(手紙など)復習の回も設ける。									
【履修要件】									
実技科目でもあるため、毎回書道道具の携帯が必要となる。									
【成績評価の方法・基準】									
清書の完成度4：レポート3：平常点3程度を考えている。 定期試験は実施しない。									
【教科書】									
毎回1～3枚程度のプリントを配布する。									
【参考書等】									
(参考書) 出来るだけ積極的に書道の展覧会に足を運び、鑑賞力をつけることをお勧めする。									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
質問や連絡は jitsu0301@gmail.com まで。 オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アジア研究（オムニバス） Asian Studies(Omnibus)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 出口 康夫 文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	アジアと日本の文化と社会								
【授業の概要・目的】									
日本およびアジアの文化と社会に関するさまざまな分野からの講義をオムニバス形式で提供する学際的な科目。									
【授業計画と内容】									
これまでアジア研究と切り離して行われてきた日本研究を「アジア」という視野に位置づけ、世界の中のアジア、世界とアジアの中の日本についての体系的認識を育てることをめざす。文学研究科の教員を中心に、京都大学内外の研究者が交替で講義する。一部の講義は英語で行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アジア研究（オムニバス） Asian Studies(Omnibus)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 出口 康夫 文学研究科 教授 平田 昌司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義
題目	アジアと日本の文化と社会								
【授業の概要・目的】									
日本およびアジアの文化と社会に関するさまざまな分野からの講義をオムニバス形式で提供する学際的な科目。									
【授業計画と内容】									
これまでアジア研究と切り離して行われてきた日本研究を「アジア」という視野に位置づけ、世界の中のアジア、世界とアジアの中の日本についての体系的認識を育てることをめざす。文学研究科の教員を中心に、京都大学内外の研究者が交替で講義する。一部の講義は英語で行う。									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アジア研究(若者) Asian Studies(Youth)			担当者氏名	非常勤講師 Tuukka Toivonen				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木3,4 不定	授業形態	特殊講義
題目	Young People, Social Innovation and the Emergence of a Sustainable Economy"								
【授業の概要・目的】									
<p>The basic objective of this lecture course is to sociologically analyse the activities of young social entrepreneurs and their role in the building of a more environmentally and socially sustainable economy. This course will be useful to anyone wishing to understand concepts such as social entrepreneurship and innovation; the changing role of young people (who are transforming from a 'problem group' to a crowd of problem-solvers); and the emergence of an alternative global economy. Specific cases from Western contexts as well as from Japan and China will be actively utilised, so along with core sociological theories from constructionism and organisational sociology, students will be able to discuss many practical examples of youth-led social innovation during this course. They will also be invited to deliver original presentations and produce their own alternative business models.</p>									
【授業計画と内容】									
開講日：5月9日,16日,23日,30日,6月6日,13日,20日,27日									
<p>Week 1: Key concepts and course overview: From social entrepreneurship and innovation to a sustainable economy The changing role of youth: From problems to problem-solvers?</p> <p>Week 2: Entrepreneurship vs. Social Entrepreneurship: What's the difference? Social innovation: From business models to the transformation of social relations</p> <p>Week 3: Case studies from Japan Case studies (focus on youth); preparations for student projects and presentations</p> <p>Week 4: Student presentations & discussions Alternative careers: From "regular full-time employees" to "irregular workers" to entrepreneurial and creative careers</p> <p>Week 5: Social entrepreneurship and innovation in China Social entrepreneurship and innovation in the UK & Finland</p> <p>Week 6: The logic of socially entrepreneurial "business models"</p>									
----- アジア研究(若者)(2)へ続く -----									

アジア研究（若者）(2)

Constructing original models in small teams (student workshop)

Week 7:

Students present their business models

From "hero" entrepreneurs to clusters, ecosystems and communities of innovation

Week 8:

The Holy Grail? Social finance, crowdfunding and crowdsourcing in an open economy

Emerging elements of a sustainable economy for the 21st century

[履修要件]

The main language of instruction is English but the instructor can provide additional guidance in Japanese when possible.

[成績評価の方法・基準]

平常点およびレポートによる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

Nicholls, Alex 『Social Entrepreneurship』

Toivonen, Tuukka 『Japan's Emerging Youth Policy』

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アジア研究(ベトナム) Asian Studies(Vietnam)			担当者氏名	非常勤講師 Dang Nguyen Anh 非常勤講師 Vu Manh Loi				
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	木3,4 不定	授業形態	特殊講義
題目	Transformation of the Vietnamese society: in the context of modernization and globalization								
【授業の概要・目的】									
<p>Prof.Dang Nguyen Anh will focus on migration (Oct.10,17) This lecture is designed to provide a foundation in the complex nature of the migration process, and to underscore the importance of migration for understanding social change. It draws on readings and on recent examples of excellent research on migration in population studies (broadly conceived) and to a lesser extent in Sociology. In addition to these learning goals, the lecture is also designed to help students produce a written essay that will be useful for the current stage in graduate school.</p> <p>Prof. Vu Manh Loi will focus on the family and people's life (Oct.24,31) Transformation of Marriage and the Family in Changing Viet Nam The lecture includes presentation of (1) socio-demographic structural changes of marriage and the family in Viet Nam during the past 50 years, and (2) changes in family values and relations associated with the structural changes.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>Prof. Dang Nguyen Anh Human migration and its attendant social, cultural, economic and environmental changes is one of the most fundamental ways in which societies change over time. Migration brings about changes at multiple scales, from the individual to the community and nation. We begin with a discussion of the motivations for migration, because we cannot understand how migration will or will not transform lives and societies without a clear picture of why people move. Nor can we make successful public policies to accommodate, encourage, or prevent migration without knowing migration selectivity. We then discuss the ways in which migration affects migrants themselves, their families at home and in destinations, and the home and destination communities. In this regard, specific foci are on remittances, international migration and transnational families within the regions of East and Southeast Asia. Students are expected to attend all classes, arrive in a timely manner, and participate fully in classes and discussions. They are also expected to engage critically with reading materials. There are enough materials on migration.</p> <p>Prof. Vu Manh Loi 1st Section(week 1): Socio-demographic structural changes of marriage and the family in Viet Nam during the past 50 years This section presents statistical data reflecting general patterns of changes in age at marriage, living arrangement after marriage, fertility transition, household structure, gender and household headship in the context of socio-economic and policy changes of the period. This section provides overall multi-dimensional context of marriage and family change to prepare the audience for the 2nd Section which focuses specifically on changes of family values and relations.</p> <p>2nd Section (week 2): Changes in family values and relations associated with the structural changes This section include discussions of the following issues:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Changes in mating values from parents' and youth's perspectives; • Gender and age shift of power and authority in the family; • Gender division of labor within the family; 									
----- アジア研究(ベトナム)(2)へ続く -----									

アジア研究（ベトナム）(2)

- Domestic violence;
- Inter-generational relations;
- Value of children;
- Old-aged security;
- Emerging issues: divorces, separated, single-mother families, and homo-sexuality.

【履修要件】

英語で授業を行います。

【成績評価の方法・基準】

レポートによる。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
適宜配布します。

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アジア研究（韓国と日本） Asian Studies(Korea and Japan)			担当者氏名	非常勤講師 韓 栄恵				
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	前期	曜時限	木3,4 不定	授業形態	特殊講義
題目	アジア研究 韓国と日本								
【授業の概要・目的】									
「韓国における日本研究と東アジア研究」、「トランスナショナル・マイグレーションを植民地主義、冷戦期体制、グローバリゼーションという歴史的な脈絡のなかで考える」									
【授業計画と内容】									
開講日：4月11日、18日、25日、5月2日									
1回目 「韓国における日本研究と東アジア研究」今日における日本研究の意味を考える。									
2～4回目 「トランスナショナル・マイグレーションを植民地主義、冷戦期体制、グローバリゼーションという歴史的な脈絡のなかで考える」 在日朝鮮人(在日コリアン)、台湾人、ベトナム人の比較を通じて、その歴史的な脈を明らかにし問題提議を行う。韓国の視点から日本さらに東アジアを相対化する。また日本から韓国を考える。									
【履修要件】									
授業は日本語と英語でおこなう。									
【成績評価の方法・基準】									
レポートによる。									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
（参考書） 授業中に紹介する									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アジア研究(日本史) Asian Studies(Japanese History)			担当者氏名	白眉センター 准教授 S・トレンソン				
配当学年	2回生以上	単位数	1	開講期	後期	曜時限	木3,4 不定	授業形態	特殊講義
題目	Studies of Premodern Japanese History in English								
[授業の概要・目的]									
<p>This is a special course on premodern Japanese history conducted in English. The goal is to outline the historical framework for the development of Japanese society, politics and religion in the premodern era. The course is designed to offer a series of lectures on Japanese history in which the areas of socio-politics and religion are brought together. The course also serves the following purposes. First, it serves as an opportunity for students to familiarize themselves with key features of Japanese history in the English language. Second, it allows students to acquire knowledge of the contents of some significant English scholarly writings on premodern Japanese history and religion. Third, it contributes to broadening the students' perspectives on Japanese history and religion by introducing themes currently under debate in the field.</p>									
[授業計画と内容]									
<p>開講日：11月14日、28日、12月5日、12月12日</p> <p>The following eight lectures are scheduled. In each lecture, general and specific oral explanations will be accompanied by in-class readings of relevant passages in English scholarly writings or in English translations of primary sources.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Socio-political and religious historical developments in the classical period I 2. Socio-political and religious historical developments in the classical period II 3. Transformations of society, politics and religion in the transition period from the classical to the medieval era I 4. Transformations of society, politics and religion in the transition period from the classical to the medieval era II 5. Socio-political and religious landscape of medieval Japan I 6. Socio-political and religious landscape of medieval Japan II 7. Changes in socio-politics and religion from the medieval to the early modern era I 8. Changes in socio-politics and religion from the medieval to the early modern era II 									
[履修要件]									
<p>This course is conducted in English. No prerequisite knowledge is required. However, an intermediate to advanced level of English comprehension will be necessary to follow the lectures.</p>									
[成績評価の方法・基準]									
<p>Grading will be assessed based on attendance and one final report. The specific guidelines and requirements for the report will be communicated during the first lecture.</p>									
----- アジア研究(日本史)(2)へ続く -----									

アジア研究（日本史）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

A list of relevant reference works will be provided during the lectures.

（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	アジア研究（ベトナム研修） Asian Studies(Visiting Vietnam)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期不定	曜時限	
授業形態	特殊講義						
題目	ベトナム語とベトナム文化をまなぶ						
【授業の概要・目的】							
ハノイ国家大学との協力により実施。ハノイに3週間滞在し、ベトナム語の学習とフィールドワークを行う。また、現地の学生の日本語教育、日本研究の支援を行う。							
【授業計画と内容】							
9月実施予定。 詳細は後日掲載します。							
【履修要件】							
全学共通科目 拡大科目群・前期・水曜日1限（担当・森真理子国際交流推進機構教授）「日本語・日本文化実習」を受講することが望ましい。							
【成績評価の方法・基準】							
現地での評価および帰国後の報告会等による。							
【教科書】							
授業中に指示する							
【参考書等】							
（参考書） 授業中に紹介する							
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））							
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。							

授業科目名 <英訳>	アジア研究(東アジアワークショップ) Asian Studies(East Asian Workshop)			担当者氏名	文学研究科 教授 落合 恵美子 文学研究科 准教授 安里 和晃				
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義
題目	東アジアワークショップ								
【授業の概要・目的】									
<p>京都大学、国立台湾大学、ソウル大学の社会学科・社会学専修が共同で実施する授業である。今年度は京都大学で実施し、東南アジアの大学の学生も参加する。東アジア社会についての相互理解を深めると共に、英語での研究発表を経験することを目的とする。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>ワークショップは、参加3大学教員による講義(英語)とフィールドワーク、および大学学生による研究発表(英語)からなる。今年度は京都大学がホスト校なので、京都大学からの参加学生は日本社会を知るためのフィールドワークのプラン作成と運営も行う。</p>									
【履修要件】									
<p>履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講と研究発表に十分な学力をそなえていることが求められる。社会学専修以外の学生も履修できる。</p>									
【成績評価の方法・基準】									
<p>ワークショップでの発表、およびフィールドワークのプラン作成と運営により評価する。</p>									
【教科書】									
使用しない									
【参考書等】									
(参考書) 授業中に紹介する									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アジア研究(移民) Asian Studies(Migration)			担当者氏名	文学研究科 准教授 安里 和晃				
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義
題目	アジア研究(移民) Asian studies (migration)								
【授業の概要・目的】									
この講義では統合が進むアジアにおける経済、社会、政治、人口について概観し、特に人の移動に着目した上で、アジアの再編について検討することを目的としている。取り上げるのは香港、台湾、韓国などの新興工業経済地域、タイ、ベトナム、フィリピン、インドネシアなどアセアン諸国、そして、中国と日本である。アジアに対する理解を深めると同時に、対アジア関係についても考えを深めるきっかけとする。The class might be taught in English depending on students.									
【授業計画と内容】									
以下の内容を扱う。 1．アジアの経済成長とその要因 Economic development in Asia 2．人口構成の変化 Demographic change 3．多様な政治体制 Diversity of political system 4．開発と移住労働 development and migration 5．女性の労働力化と移住労働 feminization of labor and migration 6．高齢化と移住労働 ageing and migration 7．人口政策と結婚移民 population policy and marriage migration 8．多文化共生・社会統合政策 social integration policy 9．人権の論理 logic of human rights 10．送り出し国の論理 logic of sending countries 11．開発と国際労働市場 international labor market formation 12．国際協調体制の構築 international collaboration and mutual benefit									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
出席点、レポートで評価。積極的な参加も考慮される。									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
(参考書)									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アジア研究（韓国研修） Asian Studies(Visiting Korea)			担当者氏名	文学研究科 教授 田窪 行則			
配当学年	2回生以上	単位数	4	開講期	前期不定	曜時限	授業形態	演習
題目	韓国語韓国社会実地研修							
[授業の概要・目的]								
ソウル大学において、ソウル大学言語教育研究所（LEI）および国際研究大学院（GSIS）の協力を得て実施する。韓国語の習得および韓国の社会と文化の概要を学ぶことを目的とする。授業は原則として英語により実施する。								
[授業計画と内容]								
題目 韓国語韓国社会実地研修 授業の概要・目的 ソウル大学において、ソウル大学言語教育研究所（LEI）および国際研究大学院（GSIS）の協力を得て実施する。韓国語の習得および韓国の社会と文化の概要を学ぶことを目的とする。授業は原則として英語により実施する。 授業計画と内容 (1) 文学部で渡航前のオリエンテーション（昨年度参加者の体験報告など） (2) 8月6～24日（予定、変更の可能性あり） ソウル大学言語教育研究所（LEI）において、3週間、週5日間、毎日午前9時から午後1時まで（1日あたり4時間）、韓国語の授業を受講。クラス分けテストにより、各人の能力に応じたクラスに所属。初心者も可。詳細は以下を参照。 http://lei.snu.ac.kr/site/jp/klec/3Week-Intensive/course.jsp 国際研究大学院（GSIS）において、韓国の社会と文化についての講義を受講（12時間）。および各人テーマを決めてソウル市内においてフィールドワークを行う（約18時間）。 (3) 帰国後、韓国語能力試験と韓国社会研究の成果発表を実施する。								
[履修要件]								
履修志望者はTOEFL・IELTS等による語学能力証明書を提出すること。英語での受講に十分な学力をそなえていることが求められる。その他費用負担等、詳細については1回目のガイダンスで説明する。								
[成績評価の方法・基準]								
ソウル大学言語教育研究所（LEI）が発行する修了証および成績証明書と、帰国後に実施する韓国語能力試験および研究成果発表の結果を総合して担当教員が評価し、単位を認定する。								
[教科書]								
ソウル大学で購入する。								
[参考書等]								
（参考書） ソウル大学で購入する。								
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）） オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。								

授業科目名 <英訳>	アジア研究（中国南京研修） Short-term Chinese Language Program (Intermediate Level)			担当者氏名	文学研究科 教授 平田 昌司		
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講期	前期不定	曜時限	授業形態 語学
題目	中国語現地実習						
【授業の概要・目的】							
中国語をすでに1年半程度履修し、学力基準を満たした学生が対象となる。8月中旬～9月中旬の4週間、南京大学海外教育学院で実施する中国語中級研修を受講し、現代中国語の運用能力を高めるとともに、現代中国の状況に関する理解を実地で深める。							
【授業計画と内容】							
4月：履修登録前ガイダンス；5月～7月：随時、事前ガイダンスおよび課題提出；8月23日（金）～9月20日（金）：南京大学海外教育学院で4週間（月曜から金曜まで毎日午前2コマ、週10コマ）の中国語中級研修を受講。							
【履修要件】							
前年度までに京都大学で履修した中国語の成績評価係数が原則として2.3以上であるか、新HSK3級に合格していること。主として、全学共通科目の中国語中級を今年度前期に履修済みの文学部学生を対象とする。授業は中国語でおこなわれる。また、心身の健康・対社会性といった面で、4週間の海外渡航に充分対応できること。 【4月に実施説明会を開催するので、文学部掲示に注意すること。】							
【成績評価の方法・基準】							
前期に「授業資料」等で配布するリスニング課題の提出状況、南京大学海外教育学院の研修出席状況・試験成績等を総合して評価する。							
【教科書】							
授業中に指示する 南京大学海外教育学院の指定教材を現地で使用する。							
【参考書等】							
（参考書） 堀田善衛 『上海にて』（集英社文庫）（初版は1959年だが、いまでも読むにたえる優れた本。） 李妍yan 『中国の市民社会 動き出す草の根NGO』（岩波新書）（2012年刊。） 国分良成 『中国は、いま』（岩波新書）（2011年刊。主として政治経済につき2010年までの状況を反映。） 孫歌 『アジアを語ることのジレンマ』（岩波書店）（1937年12月の南京については、石川達三『生きている兵隊』（中公文庫）以来、多くの著作がある。）							
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））							
滞在中の宿舎は2名で1室となる。現地渡航費用（未定であるが、総額20万円程度をみこんでいる）を負担できること、現地研修参加にあたって本人・親族の誓約書を提出できること、中国渡航等の諸手続きを自分でできること。4月に実施する事前ガイダンスに出席し、履修を許可された者以外は参加できない。8月の南京は暑いので、健康に注意すること。 参加者が6名未満の場合は、他大学との合同クラスとなる可能性がある。							
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。							

授業科目名 <英訳>	アジア研究（分析アジア哲学入門I） Introduction to Analytic Asian Philosophy I			担当者氏名	文学研究科 准教授 出口 康夫 非常勤講師 Jay Garfield 非常勤講師 Mark Siderits 非常勤講師 八木沢 敬				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	Introduction to Analytic Asian Philosophy I								
【授業の概要・目的】									
<p>Analytic Asian Philosophy is a brand-new field where Asian philosophy such as Buddhism, Daoism, Confucianism and Kyoto School is approached from the perspectives of contemporary analytic philosophy and non-classical logic.</p> <p>This lecture features the world ' s frontrunners of Analytic Asian philosophy, and gives you an overview on its status quo and future developments.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>A Relay lecture given by world ' s experts on Analytic Asian Philosophy and Analytic Metaphysics Profs. Yasuo Deguchi (Kyoto), Jay Garfield (Smith College) and Mark Siderits (Seoul National) will talk on such topics as Buddhist philosophy of mind, Buddhist phenomenology and Buddhist ethics from the perspectives of contemporary philosophy. Prof. Takashi Yagisawa (CSNR) will talk on some related issues in contemporary Analytic Metaphysics.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Grade is based on Report, attendance record, and in-class performance.									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									

授業科目名 <英訳>	アジア研究（分析アジア哲学入門II） Introduction to Analytic Asian Philosophy II	担当者氏名	文学研究科 准教授 出口 康夫 非常勤講師 Graham Priest						
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講期	後期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義
題目	Introduction to Analytic Asian Philosophy II								
【授業の概要・目的】									
<p>Analytic Asian Philosophy is a brand-new field where Asian philosophy such as Buddhism, Daoism, Confucianism and Kyoto School is approached from the perspectives of contemporary analytic philosophy and non-classical logic.</p> <p>This lecture features the world ' s frontrunners of Analytic Asian philosophy, and gives you an overview on its status quo and future developments.</p>									
【授業計画と内容】									
<p>A special lecture given by Prof. Graham Priest (CUNY), a world ' s expert on Analytic Asian Philosophy, non-classical logic and Analytic Metaphysics</p> <p>Topics to be discussed include Buddhist ontology, epistemology, theory of truth, and dialetheism.</p>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
Grades are based on report, attendance record, and in-class performance.									
【教科書】									
授業中に指示する									
【参考書等】									
（参考書）									
（その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等））									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									